

宮崎善仁会病院 リウマチセンターニュース

第20号(2023年11月号 [2023/11/13 発行])

美しく風に舞う木の葉に秋の深まりを感じるこのごろですが、お変わりなくお過ごしでしょうか。今回のリウマチセンターニュースは検査部の紹介をさせていただきます。

はじめに検査部の人員についてです。検査室担当 21名、内視鏡担当 4名、院内治験担当 1名、市民の森クリニック 1名、以上 検査技師 26名、事務 1名で構成されています。次に各階の業務の内容について紹介します。検査室担当は5階、3階、2階に分かれて業務を行っています。5階検査室では検体検査を行っています。

【 5階検体検査室 】



多くの方が受診日には採血をされると思います。採血室で採取した検体はリフトに乗って2階から5階検査室へ届けられます。それから血液が固まるのを待って遠心機にかけます。遠心が終了するまでに15分から20分程度時間を要します。長いものでは35分要します。今日は採血だけなのに会計からまだ呼ばれないなど感じる事があると思います。これは遠心が終わらないと検体の適正や量の確認ができないための待ち時間となります。この時間は省略出来ないためご迷惑お掛けしています。その後検査

になりますがいろいろな機械を使って検査します。採血から診察室に結果が届くまで1時間程お時間を頂いています。なるべく待ち時間が無くなるように新しい機械の導入や手順の変更などを常に検討しています。

2階検査室では生理検査と尿検査を行っています。生理検査とは心電図や肺機能、超音波検査等のことを指します。ここでは対面で検査させていただいているので皆さんも一度位は検査技師と関わっていることでしょう。それぞれの検査の詳しい内容については次回お話しすることとします。

【 超音波 (エコー) 検査 】



【 検尿室 】



3階では内視鏡の検査と健診の検査を行っています。内視鏡担当者は胃カメラや大腸カメラ等の内視鏡の検査の機器や物品の準備、検査をされる医師の直接介助、機器の洗浄・片付け・メンテナンスを主に行っています。午前中は健診の胃・大腸カメラも行っています。健診担当は心電図・眼底写真・超音波の検査を行っています。おおよそ心電図80件、超音波45件を午前中の短時間に集中して検査を行っています。

各フロアの決められた領域で業務する為、お顔を合わせることが少ない職種ですが存在自体を知って頂ければ幸いです。目印はターコイズ色の制服です。

最後に院内治験担当の甲斐さんからご挨拶です。ちなみに甲斐さんは白にネイビーのラインが入った制服を着用しています。

(小川)

【臨床研究コーディネーターの甲斐です】
臨床検査技師の免許を活かし、臨床研究に参加されるかどうかを患者さんが検討される段階から、実際に参加され予定の検査や治療をすべて終わられるまで、ご相談やご要望に応じつつ、研究を安全かつ円滑に進めるための調整役として、研究担当医師と共に研究に携わるスタッフです。

臨床研究とは、患者さんにご協力頂き、病気の原因の解明、病気の予防・診断・治療の改善、患者さんの生活の質の向上などの為に行う医学研究を指します。臨床研究には①市販薬の効果や副作用を評価する調査②市販薬を使って、より良い治療法を確立す

る研究③特定の条件下の患者さんのデータを収集する疫学調査があります日高先生が責任医師となり複数の臨床研究が実施されています。お声かけさせて頂く事がありましたらご協力お願いいたします。

(甲斐有美子)

ナノゾラ®皮下注(オゾラリズムブ)に自己注射製剤が登場しました

TNF阻害薬であるナノゾラ®皮下注(詳細はリウマチセンターニュース第11号をご参照下さい)に自己注射製剤(ナノゾラオートインジェクター)が登場しました。

①使いやすい形状、②簡単な操作、③安全に使用するための配慮がされています。



今までは、病院での注射に限られていましたが、自己注射製剤の登場で自宅での投与ができますので、通院間隔を空けることが可能になります。効果が安定すれば、自己注射の指導を受けた後に笑方可能になりますので、ナノゾラ®投与中の方で、ご希望がある方は、いつでもご相談下さい。

(日高利彦)

リウマチセンターニュースのバックナンバーの必要な方は当院の職員に気軽にお尋ね下さい。

なお、当院のホームページでもバックナンバーを確認出来ます。

(https://www.m-zenjin.or.jp/publicity_cat/publicity_1)